

鵜沼古市場遺跡の 発掘調査を終えて

私たちの 足下に眠る 地域の歴史

犬山東町線バイパス建設に伴い、

3カ年計画で鵜沼古市場遺跡の発掘調査が行われた。

平成26年7月から始まった調査は、昨年11月に終了。

遺構や出土品などから何がわかったのか。

発掘を担った各務原市埋蔵文化財調査センターを訪ねた。



昨年11月、奈良・平安時代の住居跡より出土した「紡錘車（ぼうすいしゃ）」。麻の繊維や絹糸などに撚（よ）りをかけて糸を紡ぐ道具である。焼きものや石で作られるものが多いが、見つかったのは鉄製で、県内でも類例が少ない



初年度の調査で見つかった墨書土器。須恵器の底部分の破片に「郡」と読める文字が墨書きされている。戸崎所長によれば、もう1文字書かれているように見えるが、検査の結果「郡」の1文字だけだったそうだ



昨年行われた発掘調査は、最終年度にあたり、約1000平方メートルの地域を調べた

当時の人々がどんな日常を送っていたのか、足下に目を向けて
埋蔵文化財に興味を持ってもらえるとうれしい

弥生時代中期～戦国時代の
幅広い年代の遺構を発見

鵜沼古市場遺跡の発掘調査は、道路予定地の鵜沼南町6丁目地内、約5千700平方メートルを対象に実施された。かつては住宅が密集した場所であったことを考えれば、遺跡は良好な状態で遺構が残っており、土器などの出土品は1万点以上に及んだ。

調査範囲の中でも南東の区域からは、弥生時代中～後期の溝が検出された。溝は弧を描いており、「環濠」の可能性が高いという。当時の集落を区画するため周囲に巡らせた溝を環濠で、発掘されたのはその一部と見られる。

「残念ながら、このたびの発掘では、環濠の内側に弥生時代の住居跡は見つかりませんでした。新しい時代の開発で壊されてしまった可能性もありますし、また別の場所で住居を構えていたのかもしれない」と埋蔵文化財調査センターの戸崎憲一所長は説明する。

また北西区域では、奈良時代から平安時代にかけての竪穴式住居跡がまともに見つかった。竪穴式住居と聞くと、いわゆる石器時代の原始人が暮らしていた家というイメージを持つてしまうが、実際は平安時代まで続いていたことに驚く。前述の環濠と思われる溝を横断するよ



各務原市埋蔵文化財調査センター所長 戸崎憲一さん

「センターでは鵜沼古市場遺跡発掘調査に引き続き、坊の塚古墳を調査していました。2年間の発掘調査によって、古墳の詳しい形状や規模などが明らかになりました」

うに、深く真っ直ぐな溝も出てきた。幅は約5メートル、深さは2メートル余りと大型である。戦国時代のもので、犬山橋たもとにそびえる城山山頂にあつたとされる鵜沼城に関わる区画の溝と考えられている。

発掘調査の結果、この地域は弥生時代以降、現代にいたるまでの長い期間にわたって、集落が営まれてきたと明らかになった。

交易の拠点として栄え
鵜沼地域の中心だったと推測
出土品の中に、塩作りに使う「製塩土器」が数点含まれていた。海沿いの地域から木曾川を遡ってもたらされたものと考えられ、この地域に川湊が存在したという推測が成り立つ。鵜沼古市場遺跡付近は、古代東山道の渡河点といわれ、古文書などの記録によれば、中世には木曾山地の木材の中継点であり、市も立つにぎやかな場

所であったという。古くより交通の要衝であり、交易の拠点として、多くの人が行き交ったことがうかがえる。

奈良・平安時代の住居跡からは、多数の須恵器や土師器が見つかった。中には「郡」と読める墨書きの文字が記された須恵器も出土した。

「郡」というのは、当時の行政区画の単位です。現在の各務原市の多くを占める古代の行政区画『各務郡』の中心は、蘇原の寺島町から青雲町のあたりと考えられています。そこと東山道が繋がっていますので、交通の要衝であったこの地域に、郡衙（郡の役所）に準ずる場所があったと思われまます。ただ、確証を得るまでにはいたっていません」と戸崎所長。

調査の終了に伴って、遺跡は埋め戻された。国道21号まで延びるバイパス計画に合わせ、発掘調査は続けられるそうである。現在、出土品の一部は埋蔵文化財調査センターに展示されている。

遺跡の発掘調査とともに 普及啓発にも努める

各務原市内には200を優に超える遺

跡が眠るといわれる。古墳の数も多く、鵜沼羽場町にある坊の塚古墳は、県下第2位の規模を誇る前方後円墳である。こうした遺跡の発掘調査のため、平成3年に埋蔵文化財調査センターが設立された。遺跡の発掘調査に加え、出土した遺物の整理保存と展示、報告書の作成などを担っており、さらに普及啓発活動にも力を注ぐ。館内に設けられた体験工作室では、勾玉作りなど古代の文化を体験する講座を開催。市民向けの歴史講演会などを企画したり、市内中学生の職場体験や大学生のインターンシップを受け入れるほか、写真を多用したパンフレットを制作して、わかりやすい解説に努めている。

「遺跡は特殊な場所にあるのではなく、私たちが暮らしている家の下に、ごく普通にあるものです。発掘で見つかるのは私たちの祖先である人々の生活に密着した道具や住まいの跡などで、当時どんな日常を送っていたのかがわかります。それは、現在の私たちの生活に繋がるとも身近な歴史です。ぜひ、足下にも目を向けていただき、埋蔵文化財（遺跡）に興味を持ってもらえるとうれしいですね」と呼びかける。

Information

各務原市埋蔵文化財調査センター

開館時間／9:00～17:00

休館日／土日・祝日

入館料／無料

住所／各務原市三井東町4-32

問い合わせ／058-383-1123

http://www.city.kakamigahara.lg.jp/maibun



上) 整理作業室では、出土した遺物の水洗い、接合・復元、写真撮影、報告書作成などを行う
下) 市内の代表的な遺跡の出土品を、時代順に展示公開している展示室（見学無料）



発掘調査の最終日に空中撮影された、鵜沼古市場遺跡